

# 地域おこし協力隊の 定着率向上に関する施策提案 ～協力隊を大分に射止める**3本の矢**～

令和3年10月15日(金)

## 令和3年度 地域政策スクール 地域活性化チーム

岩尾 勝友	大分市福祉保健部
植村 安菜	大分県土木建築部
新田 慎一	大分県農林水産部
長谷部 花綾	大分県農林水産部
松本 元晴	大分県総務部



# イントロダクション～要約

## 現状 課題

- 現状に関する情報収集
- 課題ツリー作成による課題の分析

## 施策 検討

- ペルソナ、カスタマージャーニー作成
- ヒアリング・先進事例の調査

## 施策 提言

**「協力隊パッケージ支援」**  
**～協力隊を大分に射止める3本の矢～**

# イントロダクション～地域おこし協力隊とは？

## 目的

人口減少や高齢化等の進行が著しい地方において、  
地域外の人材を積極的に受け入れ、地域協力活動を行ってもらい、定住・定着を図ることで、意欲ある都市住民のニーズに応えながら、地域力の維持・強化を図っていく。

出典：一般社団法人移住・交流推進機構 HP

## 実施主体

地方公共団体

出典：総務省作成「地域おこし協力隊概要」

## 予算

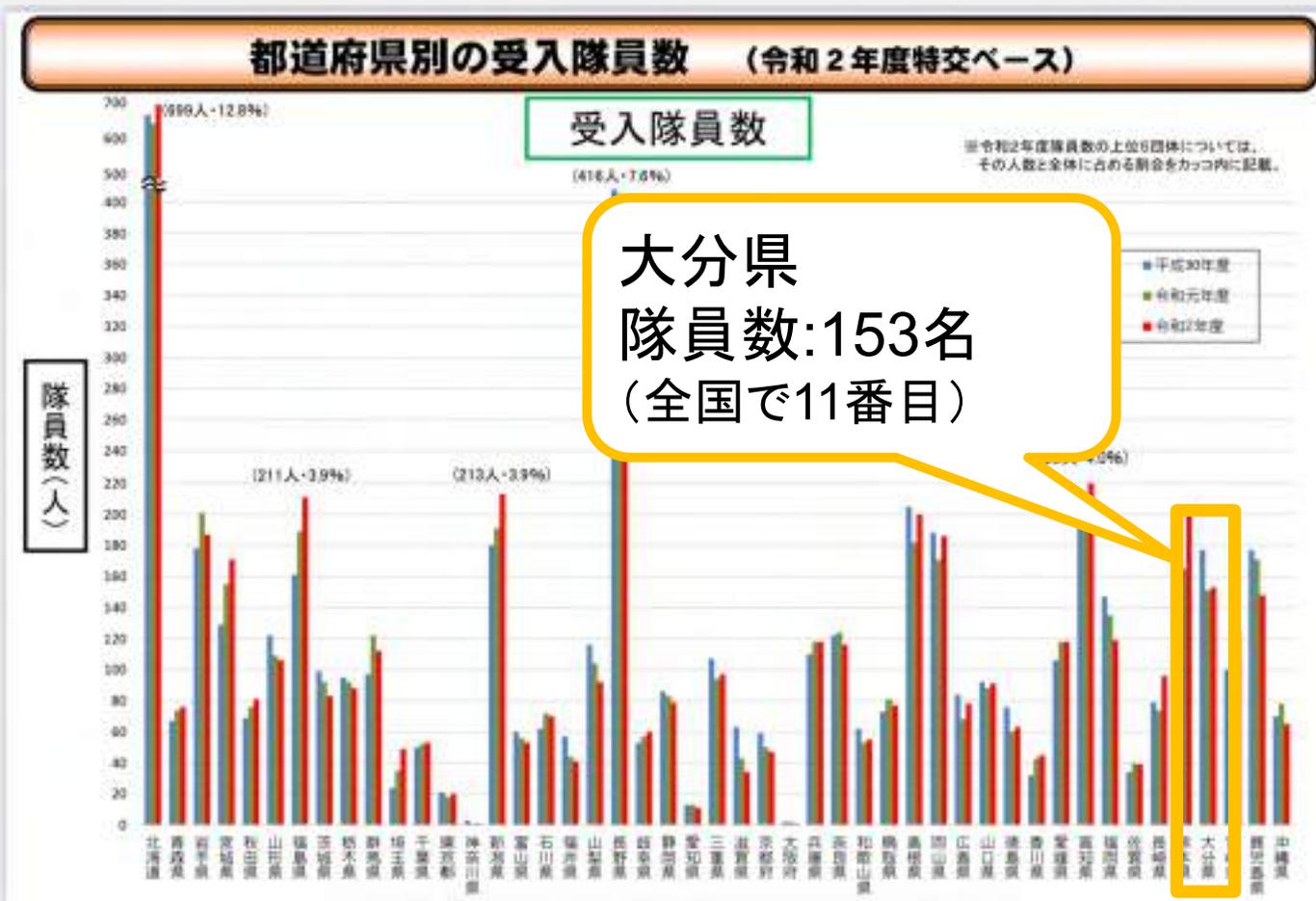
特別交付税措置

(隊員向け : 470万円/人、  
実施主体向け : 200万円/団体 等)

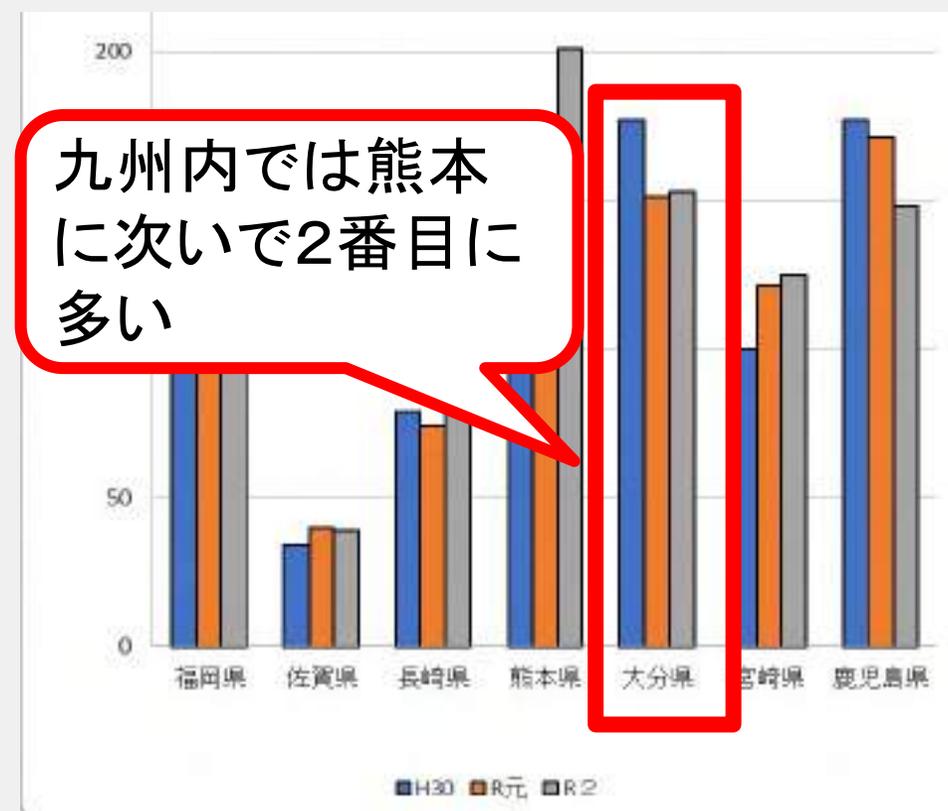
出典：総務省作成「地域おこし協力隊概要」



# 現状に関する情報収集～都道府県別受入隊員数



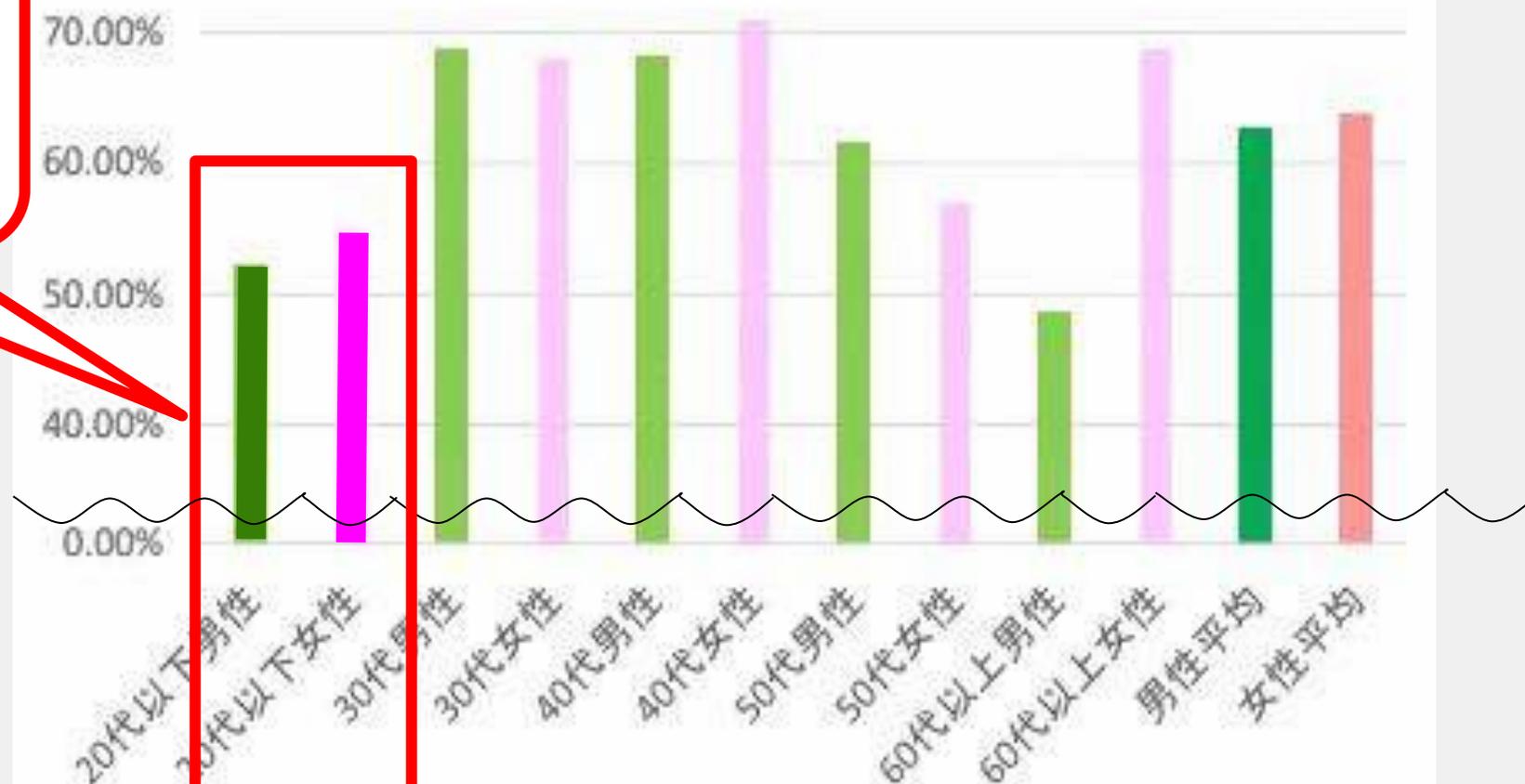
## 九州 県別受入隊員数 (令和2年度特交ベース)



# 現状に関する情報収集～全国年齢別定着率

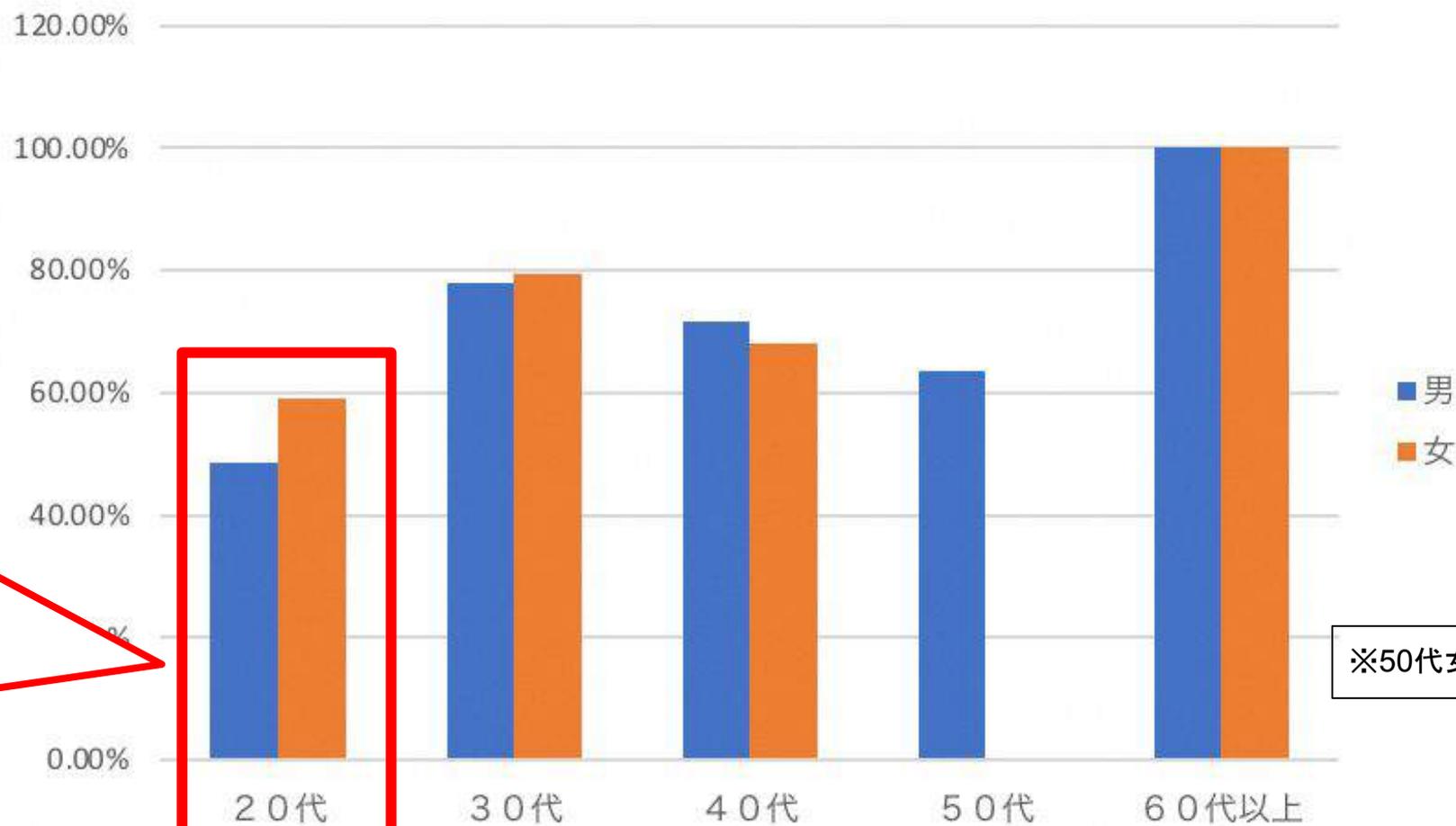
## 年代別男女別定着率

20代男女ともに平均以下



# 現状に関する情報収集～県内年齢別定着率

## 県内隊員の年代別・男女別定着率

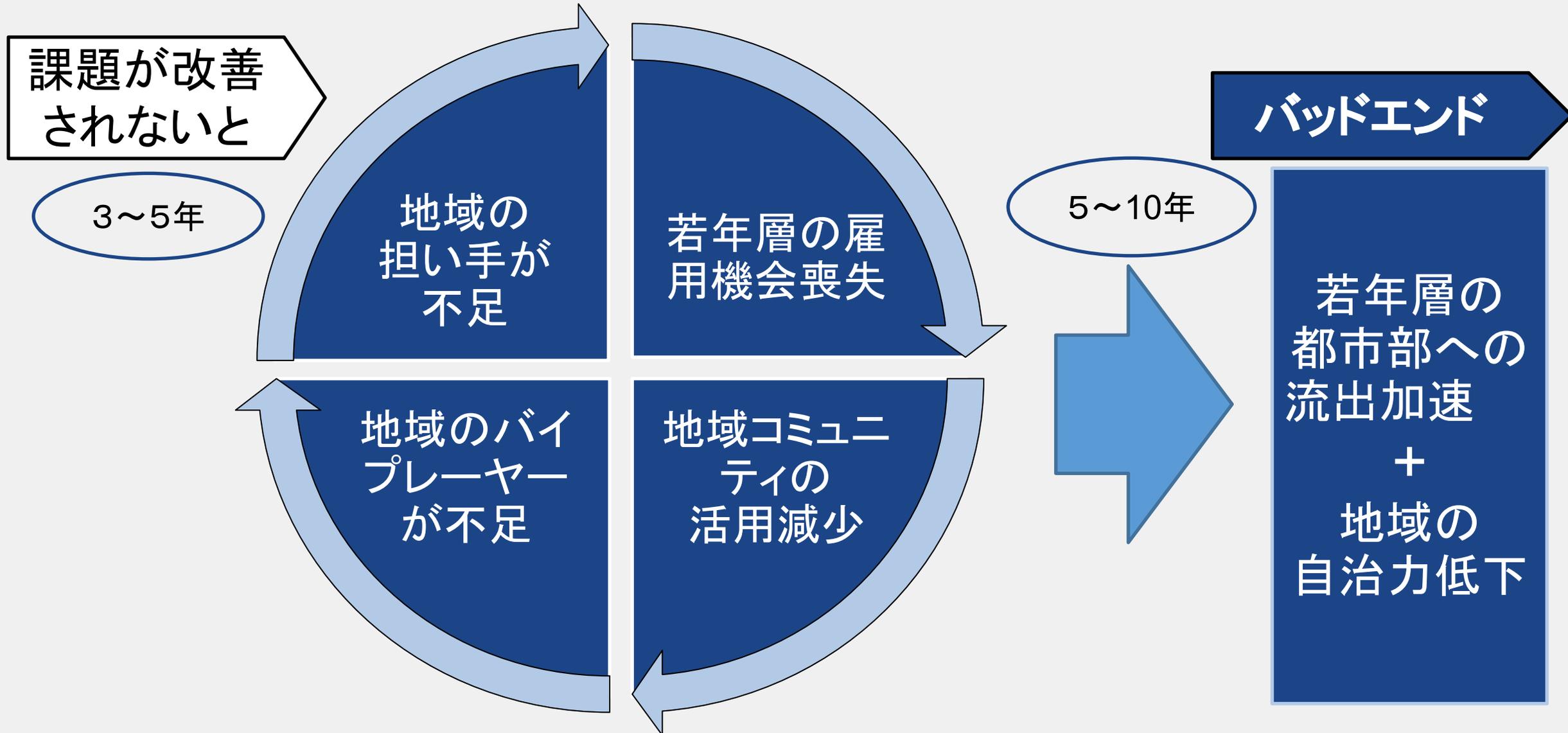


男性：  
48.57%  
女性：  
59.09%

※50代女性は県内定着なし

# 課題分析～想定されるバッドエンド

## 大分県の課題 20代男女の隊員の定着率が低い



# 課題分析～課題ツリー作成



課題ツリーの末端に対する支援策を考えれば、中心課題の解決につながる

# 施策検討～ペルソナ・カスタマージャーニー作成

## ○ペルソナ

- ・ある特定の個人を設定

## ○カスタマージャーニーマップ

- ・ペルソナで設定した人物が、活動期間中にどのような行動をして、  
どのような問題を抱えて、それに対して**どのような支援策**が必要かを  
考えることができる。

**⇒施策を受ける側の視点で施策を検討できる。**



地域おこし協力隊を希望する  
20代男性の人物像の作成

		人物像	
名前	梅田 健司(独身)	趣味	ネットサーフィン, サークル活動, 自己啓発
年齢	26歳	性格	新しい物好き, 感受性豊か, 独創的, 時間にルーズ, お調子者
前職	人材派遣企業の営業		
出身地	滋賀県		
居住地	大阪府	好きな事	飲み会
家族構成	父(高校教師) 母(中学校教師) 兄1(県庁職員) 兄2(銀行員)	座右の銘	一期一会
		ファッション	ゆったり着られるもの, オーガニック等こだわりがある
		容姿	170cm, 65kg

# 施策検討～カスタマージャーニーの作成

フェーズ	着任前	1年目	2年目	3年目	卒業
行動	退職 ・働きがいを感じず、退職 ・協力隊について知った	地域題し ・人脈形成 ・市職員や住民に聞き込み	自発的に活動 ・自主的な活動を始める ・若者向けイベントを開催	今後に不安を感じつつ活動 ・地域との関係性が悪化 ・任期終了後について考える	帰郷 ・帰郷
思考	・情報はあるけど、詳細が分からない	・市職員、住民と仲良くなりたい ・距離感が難しい	・地域を活性化するにはどうすればいいだろう	・イベントは盛り上がったのに住民と距離を感じる	・地元に戻るにも、就活の時間が欲しかった
感情	・働きたくないけど将来が不安 ・自分らしく仕事が出来そうだ ・何とかなるだろう	・受け入れられるか不安だ ・仲良くなるのも大変だ	・とにかく若者を呼んで楽しく盛り上げたい ・リーダーはモテるよね	・住民と顔を合わせたくないなあ ・受け入れられてないみたいだし定住は厳しいかな	・親や友人にも相談し辛い ・受け入れてくれない方が悪いんだ
問題	・何をすればいいか分からない ・具体的な活動内容が分からない	・地域のルールを把握できない ・隊員の自主性、人間性による	・地域住民の意向に即さない ・インフラ等、市の協力不足	・相談できない、協力体制が弱い ・アフターフォローが少ない	・卒業後に活躍できる場が任期中に見つけられなかった
必要な施策	詳しい情報収集ができる機会が必要	地域住民との関係を仲介し、活動について助言する支援員が必要		卒業後の相談ができる時間と繋がりが必要	

# 施策検討～イベントコーディネーターとして活動したが・・・

12/40

フェーズ	着任前	1～3年目	卒業
行動 + 思考	<ul style="list-style-type: none"><li>・協力隊について知った</li><li>・詳細が分かりづらい</li><li>・隊員になって考えよう</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民との関係性の構築に失敗</li><li>・自分本位なイベントを開催</li><li>・とにかく若者に来てもらおう</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民と折り合いが悪くなる</li><li>・地域に留まる理由も、職も見つからない</li></ul>
問題	<ul style="list-style-type: none"><li>・何をすればいいか分からない</li><li>・具体的な活動内容が分からない</li><li>・地域に馴染めるか分からない</li><li>→分からないことが多い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民の意向に即さない</li><li>・相談相手がいない</li><li>・市職員のサポート体制が弱い</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・卒業後に活躍できる場を任期中に見つけられなかった</li></ul>
必要な 施策	<ul style="list-style-type: none"><li>・詳しい情報収集ができる機会が必要</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民との関係を仲介し、活動について助言する支援員が必要</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・卒業後の相談ができる時間と繋がりが必要</li></ul>



## 地域おこし協力隊を希望する 20代女性の人物像の作成

		人物像	
名前	難波 絵梨華(独身)	趣味	雑貨屋巡り, カフェ巡り, SNS
年齢	24歳		
前職	映像制作会社		おばあちゃん子, <b>内向的</b> , 一人は好きだが独りは嫌い, <b>飽き性だがはまりやすい</b>
出身地	香川県		
居住地	大阪府	好きな事	写真加工, SNSに投稿
家族構成	父(居酒屋) 母(パート・店の手伝い) ゴールデンレトリバー(故)	座右の銘	明日は明日の風が吹く
		ファッション	ロングスカート, 帽子と眼鏡 にこだわりがある
		容姿	165cm, 一kg

# 施策検討～カスタマージャーニーの作成

フェーズ	着任前	1年目	2年目初期	2年目後期	3年目初期
行動	退職	活動開始	意欲的に活動	自信喪失	途中退職
	・シンフロを見て、大分県に興味を持つ	・興味のあることだけ取材 ・積極的に馴染もうとしない	・発信の頻度と質の向上を図る	・理想と現実のギャップ、 孤独感で心を病む	・出勤できず、途中退職
思考	・自分も情報発信したい	・この仕事向いてるかも ・市に依頼された仕事は慣れてからやろう	・1年目より頑張らなきゃ	・頑張ってるのに全然ダメだ	・もう自分にはムリだ
感情	・前職で使った技術を活かして どんどん活躍したい	・とりあえず自分の好きなものから 発信しよう	・見てくれる人が居る！ 自分の活動は正しいんだ！ ・練習してるのになんだか 上手いかない	・頑張っても上手いかない ・誰も理解してくれない ・もうイヤだ	・自分に向いてなかったな ・もっと市の人も指導してくれたらよかったのに
	問題	・自分が活かしたいスキル(動画編集)と求められているスキル(地域の魅力創出)に乖離がある	・地域(市)の考えと、隊員の考えが合っていない	・市と隊員の意思疎通が少なく、方向性がズれる	・相談できない、協力体制が弱い ・機械的な対応しかなかった
必要な施策	活かしたいスキルと求められているスキルの事前マッチングが必要	地域住民との関係を仲介し、活動について助言する支援員が必要			

# 施策検討～地域PR活動をしていたが・・・

15/40

フェーズ	着任前	1～3年目	3年初期
行動 + 思考	<ul style="list-style-type: none"><li>・宣伝動画に感銘を受ける</li><li>・前職のスキルが使いそう</li><li>・自分もたくさん活躍したい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分が気になる事だけ活動する</li><li>・スキル向上を図るも上手くできない</li><li>・頑張ったのに誰も評価してくれない</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・精神を病み、無断欠勤</li><li>・誰も分かってくれない</li><li>・私には無理だったんだ</li></ul>
問題	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分が活かしたいスキル(動画編集)と求められているスキル(地域の魅力創出)に乖離がある</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・市と隊員の意思疎通が出来ていない</li><li>・相談できない、協力体制が弱い</li><li>・機械的な対応しかしていなかった</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・市と隊員が歩み寄ろうとしなかった</li></ul>
必要な 施策	<ul style="list-style-type: none"><li>・活かしたいスキルと求められているスキルの事前マッチングが必要</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域住民との関係を仲介し、活動について助言する支援員が必要</li></ul>	

# 施策検討～ペルソナ・カスタマで考えた施策の整理

中心課題: 20代男女の隊員の定着率が低い

※だから

任期の途中で辞める

卒業後、県内に定着しない

想定していた活動  
内容と違った

地域に馴染めない

何をしたらいいか  
分からない

自分のスキルを  
活かさない

やりたい仕事が見  
つからない

事前情報不足に  
よるミスマッチ

地域のつなぎ役が  
いない

仕事内容の相談  
ができる相手が  
いない

スキルを活かす  
活動ができ  
なかった

卒業後の相談が  
できる相手が  
いない

※必要な施策

事前に情報収集で  
きる機会の提供

地域住民との関係を仲介し、  
活動について助言する支援員の設置

スキルの事前  
マッチング

卒業後の相談ができる  
時間と繋がり確保

# 施策検討～県内の現役隊員へのヒアリング



## 臼杵市 地域おこし協力隊 明智さん

有機農業をするため臼杵市の地域おこし協力隊に！

「協力隊OBや行政職員、地元農家さんが活動を支援してくれることが大きい。」

## 竹田市 地域おこし協力隊 黒阪さん

ものづくりの拠点を作りたいと竹田市に帰郷！

「大学教授の講演ではなく、協力隊OBの経験談など自分の活動の『道しるべ』となるような支援を望む。」

竹田に「ものづくり拠点」を！



# 施策検討～大分県地域おこし協力隊サポートチームへのヒアリング

## ○大分県地域おこし協力隊サポートチームについて

- ・概要：地域おこし協力隊OG・OBにより構成された組織で  
大分県が現役隊員のサポートを外部委託している  
(大分県地域おこし協力隊ネットワーク化支援事業)
- ・活動：研修事業、各自治体への訪問事業、個別支援等



## ○定着率向上のために必要なこと

- ・採用時の応募者と募集者の認識の違いをなくすこと
- ・こういった人材を募集しているか明確化しておくこと
- ・隊員を地域に落とし込んでいくために相談しやすい環境が必要

# 施策検討～一般社団法人移住交流促進機構へのヒアリング



- 一般社団法人・移住交流促進機構について
  - 都市から地方への移住や都市と農山漁村地域の交流を推進
  - 全国の地域おこし協力隊の情報を発信している
  
- 20代の定着率が低い理由
  - 社会人経験が少なく、人間関係の構築等のスキル不足
  
- 他県の情報
  - 佐賀県庁がミスマッチの解消等のために施策を事業化している

# 施策検討～先進事例である佐賀県庁へのヒアリング

- 佐賀県は協力隊のOB・OGで構成される  
地域おこし協力隊ネットワーク(通称:SCN)へ  
外部委託して協力隊を支援している。



# 施策検討～先進事例である佐賀県庁へのヒアリング

## SCNの取組1 募集段階からのブランディング

提案施策「協力隊募集プロ  
デューサー」の参考に！



SCNが各市町村へ出向き、地域おこし協力隊の募集方法を市町村担当者と協力して作成。



地域おこし協力隊のOB・OGがアドバイスするため、地域おこし協力隊の「**知りたいこと**」・「**やりたいこと**」が募集に反映される。



募集内容が明確化されたことで・・・  
ミスマッチが起こりにくい&応募者が増えた



# 施策検討～先進事例である佐賀県庁へのヒアリング

## SCNの取組2 現役隊員への支援体制



現役隊員

県庁職員



SCN



佐賀県ではSCNと佐賀県庁が連携し、地域おこし協力隊の活動を支援。

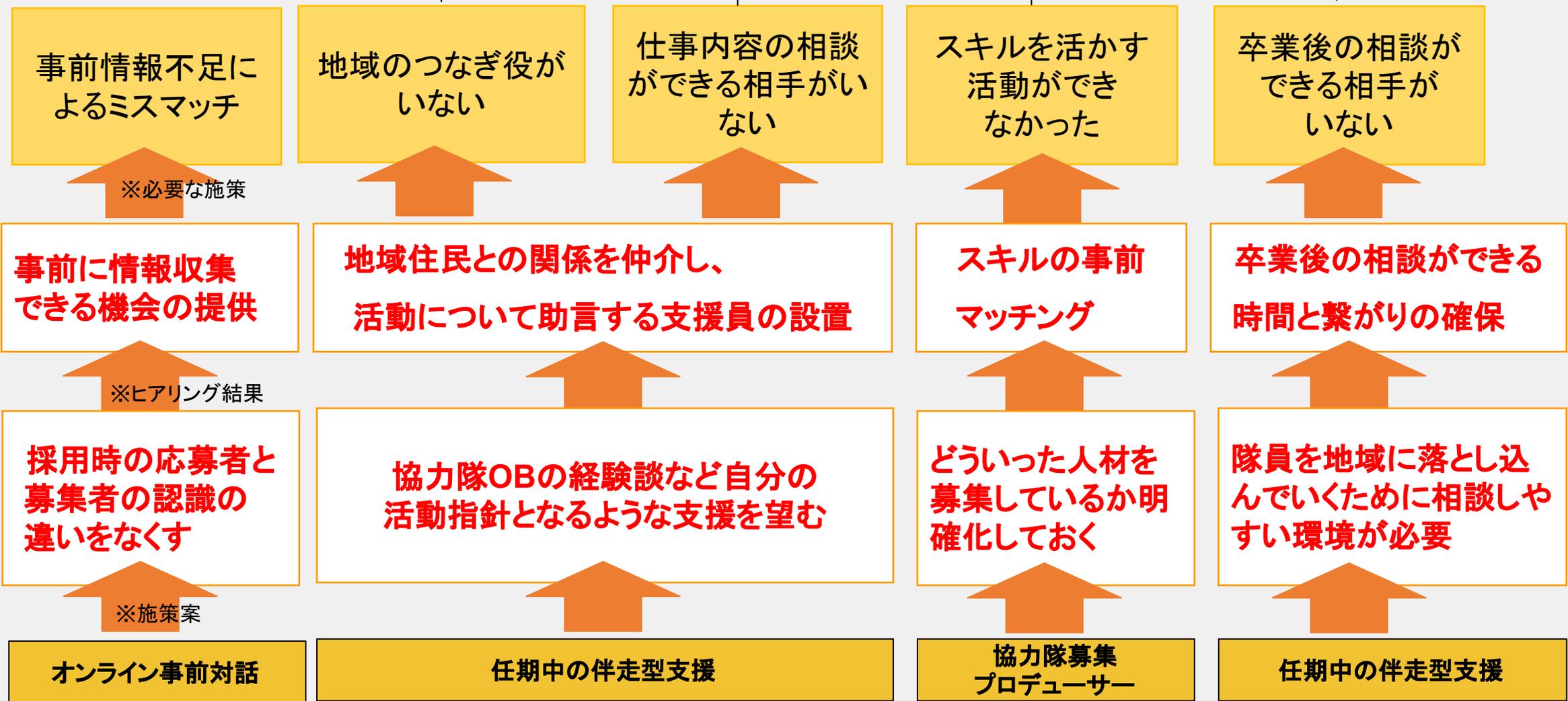
### 【主な支援内容】

- 年4回の研修会
- facebookを活用し、24時間相談できる体制を実現。
- 県庁の担当者が別の部署に異動しても相談できる「メンター制度」の導入。

# 施策検討～ヒアリング・先進事例から考えた施策の提案

中心課題: 20代男女の隊員の定着率が低い

※省略



※必要な施策

事前に情報収集できる機会の提供

地域住民との関係を仲介し、活動について助言する支援員の設置

スキルの事前マッチング

卒業後の相談ができる時間と繋がり確保

※ヒアリング結果

採用時の応募者と募集者の認識の違いをなくす

協力隊OBの経験談など自分の活動指針となるような支援を望む

どういった人材を募集しているか明確化しておく

隊員を地域に落とし込んでいくために相談しやすい環境が必要

※施策案

オンライン事前対話

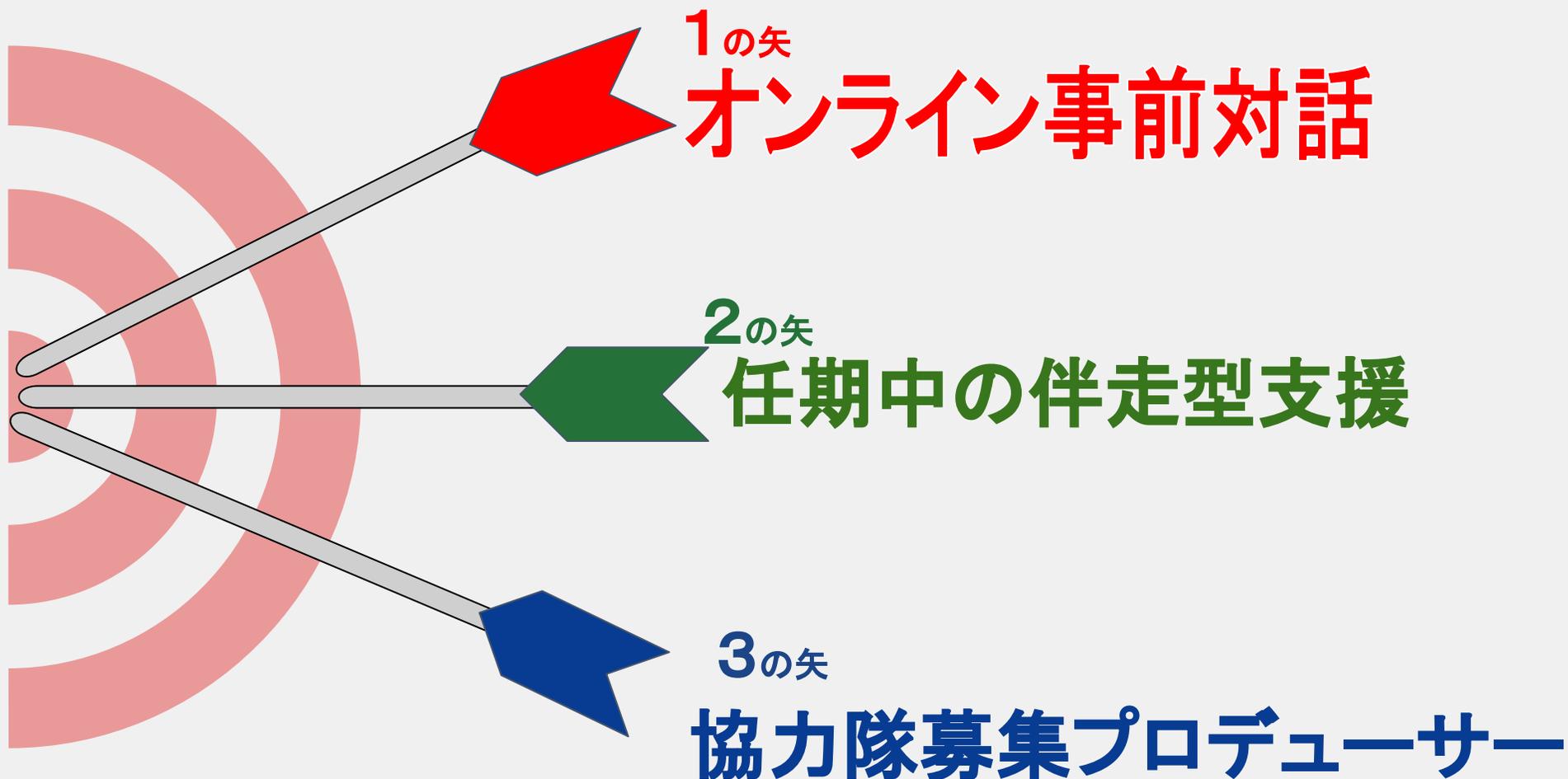
任期中の伴走型支援

協力隊募集プロデューサー

任期中の伴走型支援

# 施策提案～協力隊パッケージ支援

**3本の矢**(施策)が地域おこし協力隊を大分県へとどめる！



# 施策提案～現状の施策との整理

現状の施策

## 大分県地域おこし協力隊ネットワーク化支援事業

- ・**委託先**: 大分県地域おこし協力隊サポートチーム
- ・**概要**: 県内の隊員同士及び OB・OG、自治体職員、地域住民との人脈形成、ネットワークを構築することに寄与するための事業
- ・**活動内容**: 研修事業、各自治体への訪問事業、個別支援等
- ・**予算**: 490万円

現状の施策に  
**3本の矢**を追加

# 施策提案～1の矢～ 「オンライン事前対話」

～隊員を希望する人のミスマッチを事前に減らそう！～

## 【目的】

- ・隊員を希望する人が事前に協力隊経験者と対話し、より**現実に近い情報**を得ることで**応募する側**と**募集する側**の**ミスマッチ**をなくす。

## 【概要】

- ・オンライン上で協力隊関係者が自分の体験談等を赤裸々に告白し、活動環境を共有する
- ・協力隊参加希望者5名程度に対して、現役隊員とサポートチームから1名ずつ対応（1回 90分）

## 【スケジュール】

- <R5年度当初> 実証実験中 年2回開催（2月、8月）
- <R6年度> アンケート等を使用し実証試験を検証・改善
- <R7年度当初> 事業期間中 年4回開催（7月、9月、11月、2月）

## 【予算】

- <R5年度当初> 委託費 **20万**（実証実験）
- <R7年度当初> 委託費 **40万**（事業実施）



# 施策提案～1の矢～ 「オンライン事前対話」

～隊員を希望する人のミスマッチを事前に減らそう！～



年間スケジュール	事前準備 (2～3か月前)	当日 (8月・2月)	イベント 実施後
行政(県)	・業務委託		
サポート チーム	・募集ページ作成 ・イベントのPR ・希望者受付	・対応者の配備 ・ルームの手配	・アンケート集計 →Q&A集作成
希望者	・応募 (7月・1月)	・参加	・アンケート回答
現役隊員		・対応	

※ R7年以降は、年4回(7月、9月、11月、2月)開催

# 施策提案～2の矢～「任期中の伴走型支援」

～サポートチームスタッフによる1年目の隊員への伴走型支援！～



## 【目的】

- ・相談しやすい環境を作り、任期の途中で辞める人を減らす
- ・卒業後の相談にも対応し、定着を促す

## 【概要】

- ・着任後1か月以内にサポートチームスタッフと新任隊員の顔合わせの機会を設定
- ・電話・メール・対面などを活用し、新任隊員が相談したい時に相談できる体制を構築
- ・さらに年2回の個人訪問を行う

## 【スケジュール】

- ＜R5年度当初＞5人希望者を募集、実証実験を実施
- ＜R6年度＞ アンケート等を使用し実証実験を検証・改善
- ＜R7年度当初＞10人希望者を募集、事業実施

## 【予算】

- |          |     |      |        |
|----------|-----|------|--------|
| ＜R5年度当初＞ | 委託費 | 150万 | （実証実験） |
| ＜R7年度当初＞ | 委託費 | 300万 | （事業実施） |



# 施策提案～2の矢～「任期中の伴走型支援」

～サポートチームスタッフによる1年目の隊員への伴走型支援！～

## これまでの個別相談対応

電話・メール・対面による  
随時相談対応



## 新 個別相談対応

- ①着任から1ヶ月以内にサポーターと対面
- ②個別訪問2回(上半期、下半期)
- ③月1回の連絡

- ・**着任直後**から、サポーター(相談役)とのマッチングを取り持ち、相談しやすい関係構築をアシスト
- ・着任後の不安解消を目的とした**1年間限定の伴走型支援**を追加拡充
- ・2年目以降は従来の計画+既存事業に沿って主体的に活動

# 施策提案～3の矢～

# 「協力隊募集プロデューサー」

～悩める市町村の募集内容をサポートチームがプロデュース！～



サポートチームが協力隊の求める募集内容をプロデュース！

## 【目的】

- ・サポートチームが募集内容をプロデュースすることで、隊員の「スキル」と行政の「ほしい人材」のミスマッチを防ぐ。

## 【概要】

- ・各市町村担当者と現地にて年6回程度打ち合わせを行い、募集内容を作成。

## 【スケジュール】

- <R5年度当初> 1市町村で実証実験。
- <R6年度> 前年度で発生した問題を検証・改善
- <R8年度> 実証試験後の成果についてアンケート
- <R7年度当初> 2市町村で事業実施

## 【予算】

- <R5年度当初> 委託費 50万
- <R7年度当初> 委託費 150万

# 施策提案～3の矢～

# 「協力隊募集プロデューサー」

～悩める市町村の募集内容をサポートチームがプロデュース！～

- ※1市町村をプロデュースする場合、
- ・市町村との打合せ:6回
- ・プロデュース(募集企画、HP作成等)



※ 写真は佐賀県のプロデュース例  
 ※ 嬉野市HPより抜粋

日 程	実証実験 R5年度		事業実施 R7年度	
	上半期	下半期	上半期	下半期
実施時期				
市町村取材	→		→	
プロデュース		→		→
募集開始		→		→
効果検証		R6検証		→

# 施策提案～現状の施策との整理

既存の「大分県地域おこし協力隊ネットワーク化支援事業」  
の内容に**3本の矢**を追加！！

- ・委託先：大分県地域おこし協力隊サポートチーム
- ・活動内容：研修事業、各自治体への訪問事業、個別支援等

**【1の矢】オンライン事前対話**  
**【2の矢】任期中の伴走型支援**  
**【3の矢】協力隊募集プロデューサー**

・予算：**980** 980万円(490万円拡充)



拡充

# 施策提案～予算とスケジュール

## <R5年当初 実証試験 R5>

- ・オンライン事前対話 : 10万円/回× 2回 = 20万円
- ・任期中の伴走型支援 : 30万円/年× 5人 = 150万円
- ・協力隊募集プロデューサー: 50万円/回× 1回 = 50万円

**合計:710万円(拡充220万円)**

## <R7年当初 事業実施 R7～R9>

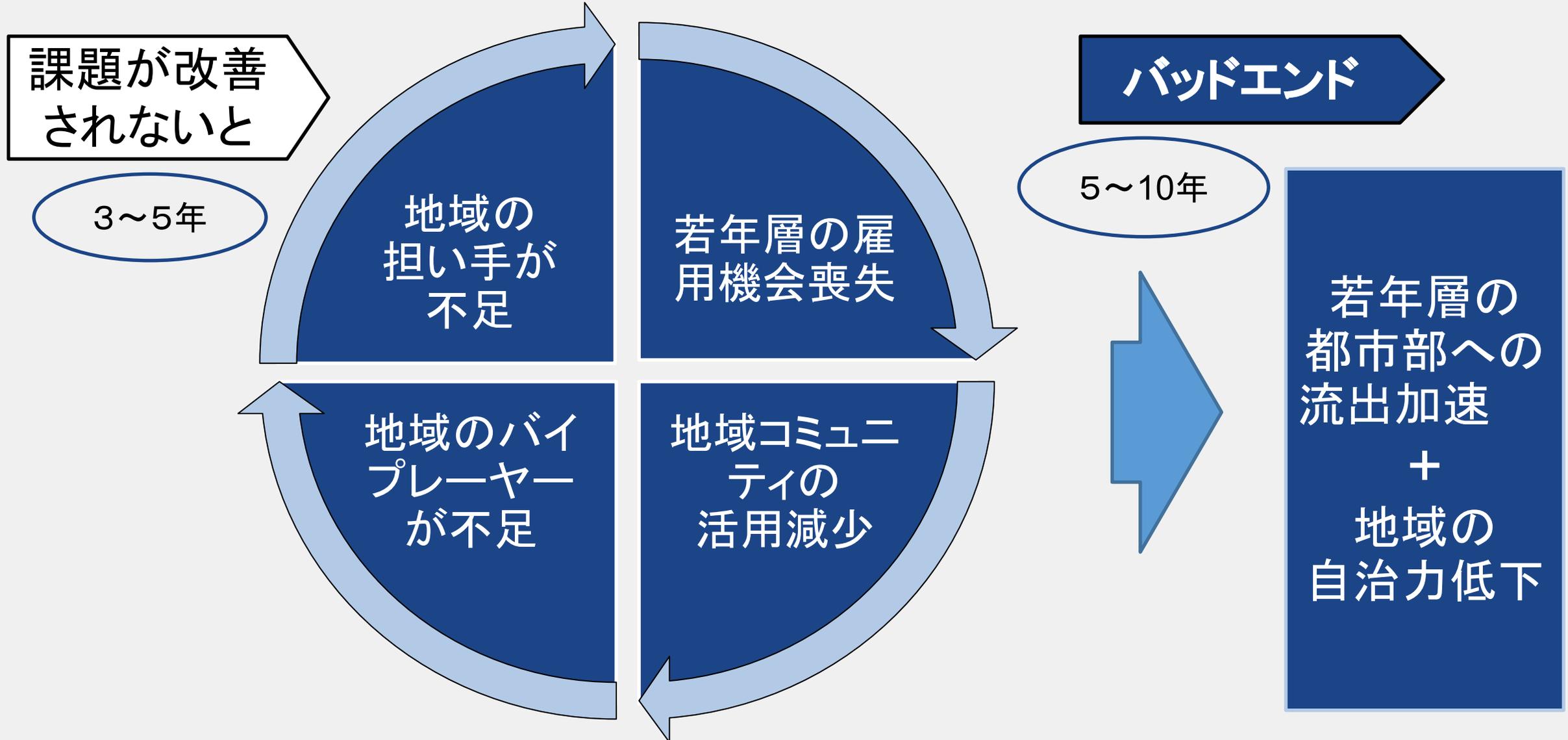
- ・オンライン事前対話 : 10万円/回× 4回 = 40万円
- ・任期中の伴走型支援 : 30万円/年×10人 = 300万円
- ・協力隊募集プロデューサー: 50万円/回× 3回 = 150万円

**合計:980万円(拡充490万円)**

	R4	11月 R5	R6	11月 R7	R9
事業計画作成 R5年当初					
実証試験 R5年当初					
R5効果検証 R7当回事業計画作成					
事業実施 R7当初					

# まとめ ~ 施策実施が及ぼす施策効果

## 大分県の課題 20代男女の隊員の定着率が低い



# まとめ ~ 施策実施が及ぼす施策効果

20代男女の隊員の定着率増加が実現！

※省略

情報不足による  
ミスマッチを防ぐ

地域につなぎ役・相談役がいる

自身の能力を  
発揮できる

卒業後も地域に  
相談相手がいる

※必要な施策

事前に情報収集  
できる機会の提供

地域住民との関係を仲介し、  
活動について助言する支援員の設置

スキルの事前  
マッチング

卒業後の相談ができる  
時間と繋がり確保

※ヒアリング結果

採用時の応募者と  
募集者の認識の違い  
をなくす

協力隊OBの経験談など自分の活動の  
道しるべとなるような支援を望む

どういった人材を  
募集しているか  
明確化しておく

隊員を地域に落とし込んで  
いくために  
相談しやすい環境が必要

※施策案

オンライン事前対話

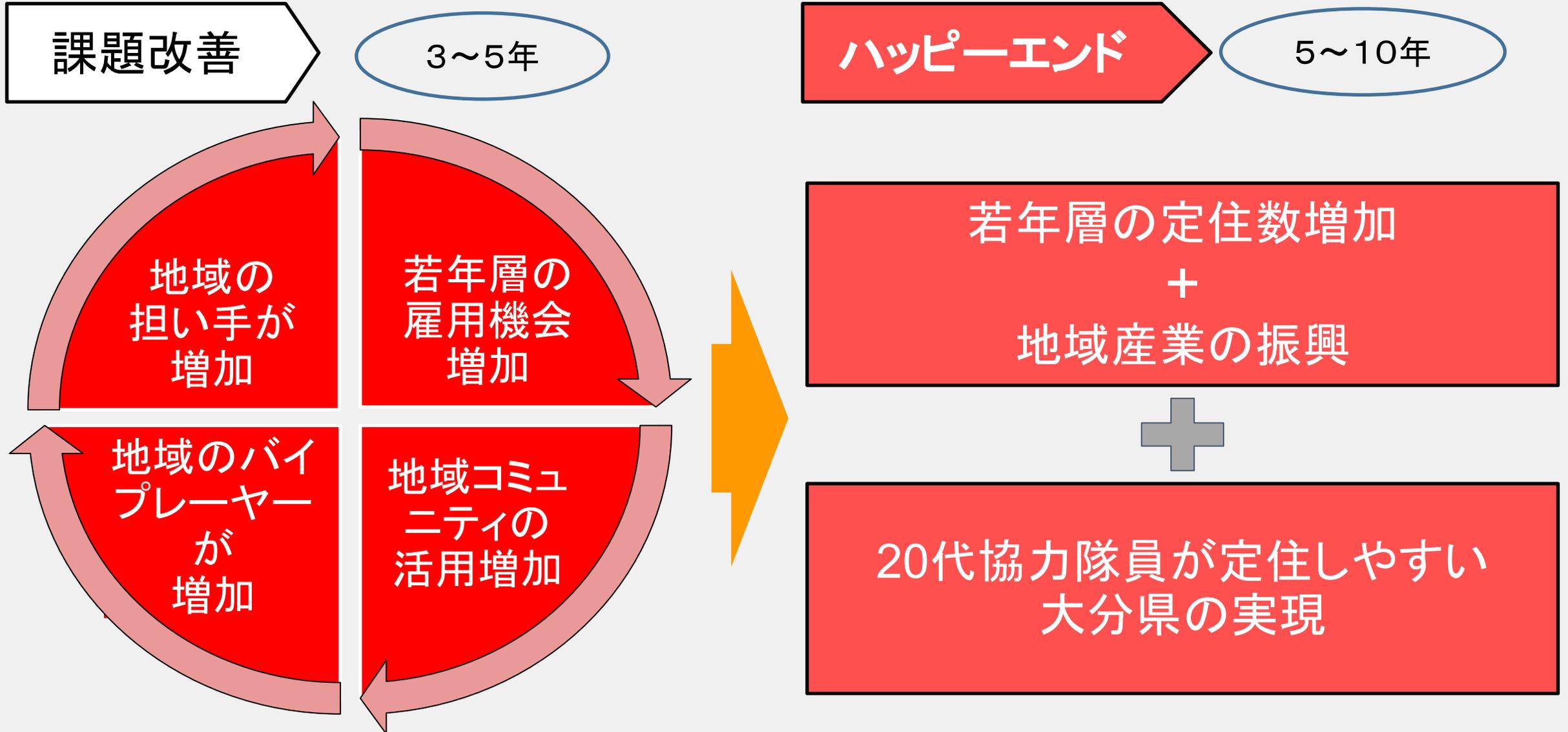
任期中の伴走型支援

協力隊募集  
プロデューサー

任期中の伴走型支援

# まとめ ~ 施策実施が及ぼす施策効果

## 施策効果 20代男女の隊員の定着率が上がる



# カスタマージャーニーニー～梅田健司さんのハッピーエンド

37/40

フェーズ	着任前	1～3年目	卒業
行動	<ul style="list-style-type: none"><li>・協力隊について知った</li><li>・オンライン事前対話に参加</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・住民との関係性の構築に成功</li><li>・住民が求めるイベントを開催</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域のイベントコーディネーターとして起業</li></ul>
思考	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動内容や地域の雰囲気に関して、イメージをつかめて安心</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・困ったときに相談できる相手がいって良かった</li><li>・地域の人から感謝されて嬉しい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域のために活躍したい</li></ul>
施策	<ul style="list-style-type: none"><li>・オンライン事前対話</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・任期中の伴走型支援</li></ul>	

# カスタマージャーニーニー～難波絵梨華さんのハッピーエンド

38/40

フェーズ	着任前	1～3年目	卒業
行動	<ul style="list-style-type: none"><li>・宣伝動画に感銘を受ける</li><li>・募集の詳細を確認すると、「地域の活動PR」より「動画クリエイター」の方がスキルが活かせそう</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・前職のスキルを発揮して、市が期待する役割を発揮する</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・地域の人で紹介してくれた動画制作会社に入社</li></ul>
思考	<ul style="list-style-type: none"><li>・活動内容の詳細を知ることができて安心</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・活躍できて嬉しい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・自分のスキルを活かして地域に貢献した</li></ul>
施策	<ul style="list-style-type: none"><li>・協力隊募集プロデューサー</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・任期中の伴走型支援</li></ul>	

# KGI/KPIの設定(R9)

**KGI** 20代男女の**定着率60%**達成

**KPI** 協力隊支援パッケージ導入後の**満足度70%以上**

希望者

協力隊募集  
プロデューサー

オンライン  
事前対話

任期中の  
伴走型支援

定住  
へ  
!

- ・事前情報不足によるミスマッチを防ぐ
- ・地域のつなぎ役がいる
- ・仕事内容の相談ができる相手がいる
- ・スキルを活かす活動ができる
- ・卒業後の相談相手がいる

満足度  
向上

- ・任期中の途中で辞めない
- ・卒業後、定着する

- ・20代男女の定着率向上

# 施策立案にご協力いただいたみなさま

- 一般社団法人 移住交流推進機構さま
- 臼杵市役所秘書・総合政策課さま
- 大分県企画振興部おおいた創生推進課さま
- 大分県地域おこし協力隊サポートチームさま
- 佐賀県庁さが創生推進課さま
- 竹田市役所企画情報課さま
- 地域おこし協力隊のみなさま

(五十音順 順不同)



誠にありがとうございました。